北鎌倉台峯トラスト　北鎌倉の景観を後世に伝える基金

北鎌倉だより

会報

2017 年 4 月　　NO.35

＜敷設された仮設路＞

台峯整備工事が始まりました

目次

■ 台峯整備工事の現場から　2
■ 緑の洞門　保存運動の経緯と現況　5
■ 都市計画道路を理事が歩きました　6
■ 台峯を歩く会と関連活動の報告　9
■ 台峯の周辺⑬　1951 年鎌倉　10
■ 会員の集い・活動記録・編集後記など　11
■ 工事により変わる風景　12

台峯整備工事の現場から

●工事の遅れと進捗状況

昨年秋から始まるはずの工事が大幅に遅れて今年の 1 月から始まりました。

緑地の中のため池の浚渫工事という特殊な工事のため、入札に応じる業者が少なく業者の選定が遅れたためです。また、生物や環境に配慮するための準備をしたことも遅れた理由です。

1 月～2 月に工事用仮設路の建設、3 月に“谷戸の池”の水抜きが終わり、4 月の初旬に生物の救出作業が行われました。これから 5 月末まで池のヘドロの浚渫が行われます。予定された平成 28 年度中の工期は延長され、平成 29 年度までずれこむことになります。

●浚渫工事（池のヘドロの除去）の手順

池に小型のパワーショベルを入れ、集めたヘドロをベルトコンベアーで池に隣接する置き場へ移動します。隣接する置き場が満杯になった後は、ヘドロを 100mほど離れた置き場に運ぶため、キャタピラつきの運搬車が仮設路を行き来することになります。

●生物の避難池と退避作業

台峯緑地の中心になる“谷戸の池”は鎌倉市では数少ない溜池で、他の緑地では見られない貴重な生物が生息しています。3 月末～4 月初旬に台峯保全に関わる団体で、救出作業が行われました。

避難池の設置と環境整備

工事業者が、池の上流部の湿地に土嚢で囲って、仮設の避難池を作ってくれました。今後 3 年間は工事が続くので、ここで池の生物を守ることになります。

水を貯めただけでは生き物が生息しにくく天敵にも襲われるため、3 月末、基金や台峯に関わる人たちでセリなどを移植して、避難池の環境整備をしました。

池の生物の退避作業

4 月の初めに、鎌倉市緑化推進専門委員の指導のもと、基金や台峯関係のボランティアで、池の生物救出のために捕獲を試みましたが、この日は、ほとんど生物が見つかりませんでした。以前、何者かによって放流されたブラックバスという外来魚に食害されたことが原因かもしれません。

それに先立ち、ブラックバスが 30 尾以上、現場の作業員に捕獲されたとのことでした。作業員には駆除すべき外来種と、保護すべき生物について理解してもらっています。今後も現場で作業中、生物保護に対応してもらうことになっています。

我々市民ボランティアは 5 月末まで現場に入れませんが、鎌倉市緑化推進専門委員の方が、時々視察してくれるようです。

●工事現場を見て感じたこと

3 月 29 日、当基金はじめ台峰保全に関わる団体から 9 名が参加して、現場の視察が行われました。現場の状況を報告します。

1. 工事用仮設路（北半分は開園後も残る）の位置や構造は、前号でお知らせした当基金の要望を活かして施工されており、大きな問題は無いと感じました。
2. 池の排水の際、シジミなどが生息する水

路にヘドロが流入しないか危惧していましたが、要望どおり、池の排水は直接水路に流さず、排水管で下流部に放流されていました。また、池からの水の供給が途絶えるため、水路に水が無くなる懸念もありましたが、少量ながら流水が確認できました。水路の周辺に湧水があるのでしょう。

3. 池の生物を退避するための仮設の池と、ヘドロと生き物を選別する場所が出来ており、今後、現場の作業中に生き物を救出することが可能になっています。
4. ヘドロを浚渫した後、上流から泥が流入しないよう、沈砂池が設けられています。

●今後の懸案事項

ヘドロを満載した車両が仮設路（湿地沿いの散策路）を何度も通過すると、散策路の地盤沈下や湿地への影響が起きる可能性は否めません。さしあたり、6～7 月のホタルの観察会で、影響を確認したいと思います。

ヘドロの集積場に植物が生えて周囲の景観となじむようになるまで何年かかるのでしょうか？

残念ながら外来生物の食害で、予想以上に池の生物が少なかったのですが、池の生物は復活するのでしょうか？ 少なくとも、トンボなど水生昆虫の場合、今年の夏には、新設の生物退避池に飛来して繁殖を始めると思われます。

---

4 月 4 日鎌倉市公園課にて
今後についての話し合い

●平成 29 年度の予定

5～6 月に池の堤防の最終設計案を作成し、夏に予算請求、秋には業者決定、冬には着工したいとのことです。堤防の設計については今までの話し合いで決めたことを基本にして、公園課で最終的に設計するそうです。

●当基金の提案の確認

堤防工事に際し、一部をコンクリートで固めるが、設計の最終段階で当基金と再確認を行うことになっています。堤防の表土を保全したり、池の水は常時オーバーフロー（今までと同じ状態）に保つなど、当基金の今までの提案を確認しました。

●今後の長期予定

堤防の工事は平成 29 年度、管理棟が2棟出来ると想定して（1 棟に縮小される可能性もあります）、平成 30 年度、平成 31 年度に、それぞれの管理棟の工事を行う。平成 32 年度の早期に一部開園(未買収の土地があるため)を目指したいとのことでした。

●その他

公園課に対し、当基金の要望通りに丁寧な工事をしてもらっていることを感謝しました。また管理上、池の安全対策について質問したところ、基本計画には無いが、池への転落防止対策として、柵のような物が必要になるだろうと公園課から説明を受けました。

∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽

工事は今後 3 年間続きますが、夏季を中心に自由に入れる時期もありますので、当基金は、従来の“台峯を歩く会”やモニタリング調査を通じて、台峯の工事の進展と自然への影響を見守っていきたいと思います。

∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽∽

久保 廣晃

＜ヘドロ浚渫＞

＜ヘドロ集積場＞

＜生物救出＞

＜生物の退避池の整備＞

＜排水と生物を選別する池＞

＜湿地の仮設路＞

緑の洞門　保存運動の経緯と現況

2015 年 4 月『緑の洞門』が通行禁止となり、同年 8 月安全性を理由に松尾市長が洞門の開削、破壊を決定、更に翌 2016 年 4 月 4 日には開削工事の最初の工程である仮囲い工事が強行されたのです。

けれども、その後市側の複数の手続き不備が明るみに出たため、工事は一旦休止となりました。保存運動として見守り諸活動が継続されていたところ、5 月に文化庁による現地視察が実施され、その勧告を受けて文化財専門委員会が開催されたのです。尾根とともに洞門の保存に向け、潮目は大きく変化したと言えましょう。

7 月 25 日鎌倉市議会の全員協議会が開催され、松尾市長ができる限りの尾根の保全を表明！11 月 10 日に開かれた「北鎌倉隧道安全対策検討業務委託」第 1 回委員会において、人を通すためにライナープレートで仮設工事をし、現状を保存して元に戻せるようにする旨が決定されました。

今年は 2 月 11 日同委員会主催の「意見を聴く会」が開催され、参加した 21 名の市民がそれぞれの意見を陳述しましたが、そのうち 15 名もが『緑の洞門』を含む尾根筋の文化的価値を認め、その保全を求めるものだったのです。今後は、本工事もこの見地に沿って計画、実施される様に見守って行かねばなりません。特に工事内容に、自動車（小型）の通行など現状保存を超えるものが含まれていないか、十分監視して行くつもりでおります。素掘りの美しい洞門を後世に残すべく、当基金も保全活動に今後とも協力活動を継続して所存です。

なお、「北鎌倉隧道安全対策検討委員会」の第 3 回が、3 月 16 日予定されております。結果報告は、当基金のホームページのリンク、「北鎌倉緑の洞門を守る会」をご参照ください。また、この洞門の問題については、そもそもの根本原因につき、今後分析を進めていきたいと思っています。

出口克浩

＜洞門前の最近の姿＞

都市計画道路を理事が歩きました

都市計画道路（由比ガ浜−関谷線）の全長8,600メートルは、南から、A：由比ガ浜－鎌倉市役所先の法務局跡地、B：そこから神明神社まで、C：更に関谷まで、の3区画に分かれます。

台峯を通るB区間は、2015年の都市マスタープランで A、C 区間と同様に計画の「存続」区間とされる筈のところを、当基金や地元市議、多くの市民の反対意見から、現在は下記のような表現になっています。（鎌倉市都市マスタープラン 2015 年9月発行参照）

道路ネットワークの検討や、歴史的風土・緑地保全を考慮の上、最適ルートおよび構造形式等精査し、計画の変更を検討する。

去る 12 月 4 日基金の月例理事会後、当基金の理事一同が大船フラワーセンター前跨線橋から神明神社を経て台峯まで、C区間の未着工部分や保留中のB区間の一部を一緒に歩きました。

スタート地点は大船フラワーセンター前跨線橋(写真①参照)でした。

この地点から現在の18メートル幅の道路が住宅地に入り込み神明神社(山崎小学校手前)まで続きます。

（写真②参照）

＜写真②＞

そこから道路幅は8メートルになり北鎌倉女子学園手前から台峯緑地に入り山ノ内配水池横に抜けるルートです。

住宅地と台峯緑地を縦断するルートで実現の可能性は考えにくいのですが。

（写真③は台峯のピーク付近の測量杭）

参加した理事の感想は次葉の通りです。

望月　眞樹

＜写真①＞

＜写真③＞

＜一緒に歩いた、理事の感想＞

「鎌倉都市計画道路　由比ヶ浜関谷線」の道路予定地を歩き、今更ながら危機感を抱きました。当然ですが、「自然保護」等は全く無視。

台峯の自然は、破壊されます。計画そのものをはっきりと廃止消滅させるべきであると、痛感した次第です。（M 理事）

拙宅近くの月極駐車場など見ると、空きが増え、今後住民の自家用車数が急激に伸びるようには思えません。また、自家用車による観光は制限的に扱うべきでしょう。もし津波などからの避難ルートとしてならば、一斉に車で水平方向に、というのは所詮無理と考えます。

何のために、今回歩いた自然や住宅地を壊しても造りたいのか、わかりません。（H 理事）

台峯緑地に今も予定されているらしい「県道　関谷由比ガ浜線」、緑地の一部を刈り込んで道路予定地がマーキングされています。本当に道路建設は実現可能なのか、

今回、山崎跨線橋から台峯付近までの道路建設予定地を歩いて驚いたことは、どこも住宅地が密集していることです。高速道路のように高架にしなければ実現できそうもありません。

昨今は、行政内部でも実現性に乏しい道路計画を見直す動きがあると聞いています。東京都の豊洲問題のように、無理な計画を強引に押し通すような愚挙は避けてほしいと望みます。（K 理事）

どこを通るのか全くイメージの出来ないルートでしたので、歩いてみればわかるかとも思ったのですが、実際には民家の上である場合が殆どで、非現実的としか思えない状況でした。仮に計画が進んでも、私が完成した道路を目にすることはないだろうな、という印象でした。（U 理事）

今回は大船植物園近くの山崎跨線橋から山ノ内配水池まで皆さんと一緒に歩いて、そこから皆さんと分かれて由比ヶ浜の「KKR 鎌倉わかみや」まで歩きました。

計画道路の A 区間（由比が浜一旧鎌倉法務局）・B 区間（台峰周辺）・C 区間（山崎小学校一関谷）のそれぞれで街並みの雰囲気が大きく異なっていて、計画を取り巻く環境が大きく異なることが分かりました。

この都市計画道路は図面によると B 区間とされる台峰周辺は緑地帯の核心部を陸橋を多用して貫通する計画になっていて、もしも計画が実施に移された場合、台峰緑地の景観のみならず北鎌倉の主要な史跡である葛原ヶ岡神社や銭洗い弁天の周辺環境及び円覚寺からの対岸の眺望などが大きく棄損されることが予想されます。

災害時の避難路という計画の存在意義であるとされますが、山間部に建設されるであろう橋梁が被災し、災害時に通行できない可能性もあり、避難路としての実効性は疑わしく思います。

昭和 31 年都市計画決定されて以来、長期未着工になっており、このたび都市計画道路の見直しの結果「保留」となった B 区間については、次の見直しのタイミングで「廃止」とされるのが相当であると思いました。（K 理事）

昨年末、計画道路を歩いて看て、改めて感じた事、北鎌倉女学校の上部の辺り、再度目前の現況を見渡し（道路になった情景を予定地図と重ね想像して見ました）

其れはトラックや乗用車、バイクがスピードを上げ排気音が聞こえます。そこに実際に身を置いて地図上との違いを学びました。（D 理事）

＜スタート地点あたりは空き地もあるのですが＞

私は若い頃、尾瀬の中に道路を作る計画があり、長蔵小屋の平野長英さんがその計画を阻止したことに感動を覚えました。

いま、鎌倉に残された自然の中に道路が出来るかもしれないというとそのことを思いだします。

歳はとりましたが、私も微力ながら反対運動に関わっていきたいという思いで、計画道路を歩きました。（S 理事）

＜段々住宅地になってしまい＞

大切な鎌倉の自然を壊すことは許されません。然し車で観光地に来るのは止められません。車が増えればそこに住む人々の安全もおびやかされます。

これからは私の妄想的考え方です。横須賀線を全面地下にすれば現状の路線を利用して計画道路も地下道で海岸線まで通せれば最高でないでしょうか？

地域住民の安全も確保でき今問題の北鎌倉隧道も解決できるのでは？

残った地上部分は地域住民のために開放すれば素晴らしいですね。

また、建設費は計画道路の費用を横須賀線の地下化に充当すれば十分な建設費が賄えると思われます。一石何鳥にもなるのでは？ （O 理事）

＜こんな静かな路地のそばを＞

以上

台峯を歩く会と関連活動の報告

2016年8月より2017年2月までの「台峯を歩く会」と関連活動の報告を致します。何と、2月で220回に成ります。

・「マツムシを聴く会」　9/18に開催。1ヶ月ほど前に「老人の畑」近辺の草刈りが行われた影響か？予想通りマツムシの声を聴く事は出来ませんでした。近辺では聴けたので来年に期待です。

・工事開始　本年2月より3月23日まで、「谷戸の池」浚渫関連の仮設路工事開始の為、谷戸底部分通行禁止となる。会は、コースを変更し実施。

・8/20　テーマは、「刈らずに残したいツルクサノ花」：スズメウリ、ツルニンジン、ヤマノイモ、コバノカモメズル

・9/18　「9月に咲く樹木の花、湿地の野草」：タラノキ、ヌルデ、シロバナサクラタデ

・10/16　「秋を彩るタデの花」：イヌタデ、ボントクタデ、ハナタデ、「野菊の仲間」：シラヤマギク、ノコンギク、関東ヨメナ、ヤブタバコ

・11/20　3回目の「なださんを偲ぶ山歩き」なださんが一緒に歩いている様な雰囲気の中、台峯の秋の始まりを満喫しました。

・12/16　「鎌倉は、隠れモミジの里に成る。」 従来の様な、里山的手入れがなされない為、急激にモミジが増えている。そんな中工事＋の準備作業が開始。

・1/15　「台峯工事を直前にして、守りたい谷戸、水路、湿地の生き物たち」：マツカサガイ、イシガメ、マシジミ、ホトケドジョウ、ヘイケボタル、オニシバリ、ナンバンギセル、オオハナワラビ等。一部移植作業を行う。

・2/19　「台峯工事と今後の問題点」 今回は従来と異なる尾根道を歩く。春の山野草が芽吹き始める。タネツケバナ、ホトケノザ、又、エナガ、シロハラ、シジュウカラの声を耳にしました。尾根から見た仮設路に皆さんビックリでした。

望月　晶夫

＜シラヤマギク（ムコナ）＞

＜カントウヨメナ＞

台峯の周辺⑬　　1951 年鎌倉

旧い松竹映画を観ていたら、主人公の佐田啓二が岸恵子を鎌倉の近代美術館に案内する。大佛次郎原作の『旅路』だ。

<イサム・ノグチ作「こけし」の前で 『旅路』より>

映画から2年遡る1951年11月に我が国初、世界でも 3 番目とかの、この近代美術館は開館した。その時の展覧会「セザンヌ・ルノワール展」の目録が今も我が家に遺る。どうやら父が観に行ったものらしいが、泣きわめく当時生後 4 か月の筆者から逃げ出したのか、それとも愛児を抱いて小春日和の中を散歩がてら鑑賞したのだろうか。

それはともかく、同じ1951年の鎌倉にもう一つ現れた輝く存在は、(私ではなく)イサム・ノグチと李香蘭こと山口淑子のカップルである。家探しに来た二人を、東和映画社長の川喜多長政・かしこ夫妻が案内し、台峯麓の魯山人邸で歓待された (右上写真)。結局その離れで新婚生活を送るようになったことは、皆さんご存知のとおり。美術館では翌年に「イサム・ノグチ展」、88 年「北大路魯山人展」、更に 96 年「イサム・ノグチと北大路魯山人展」と開催が続く。

<「アサヒグラフ」1951 年 12 月 12 日号より>

美術館の、開設を戦後いち早く決断した内山岩太郎神奈川県知事(当時)の慧眼には感服させられるが、その発展はこの時期の、この地だったからではあるまいか。 土地の無償貸与(八幡宮)、展覧会企画への協力や収蔵用の美術品寄贈(近在に住む画家・作家などの文化人)等、当時地元で多くの支援を受けたことが知られている。

ここに掲げた例も、美術館の近くに、作家、映画人と撮影所、陶芸家とその愛した田園である台峯！加えて乳児がいても観に来る一般人などが存在したということだろう。それが 1951 年の鎌倉だったのだ。

<魯山人邸離れでのイサム・ノグチと山口淑子
『小さな箱　鎌倉近代美術館の 50 年』より>

イサムはとうに、また淑子も先年亡くなり、更に美術館も鎌倉の本館は昨年閉鎖、葉山へと移ってしまった。いささか淋しくはあるが、いずれも一つの時代が終わり、次の発展のため、と前向きに捉えたいものである。

本田隆史

第 18 回「会員の集い」

＜台峯の現状をご紹介＞

11 月 23 日（水）山ノ内公会堂にて計 20 数名の方にご出席いただき、今年も「会員の集い」が開かれました。

台峯の整備も工事を控えた最終段階に入ったところで、当基金としての主張を深めるべく、現状をご説明しつつ、みなさまのご意見を伺った次第です。

活 動 記 録

（2016 年 8 月～ 2017 年 3 月）

1 市公園課と打ち合わせ
8/4,8/30,10/13,1/24,3/29

2 「緑の洞門」行政訴訟等傍聴
11/10,2/6,2/11,3/16

3 都市計画道路を歩く 12/4

4 会員の集い 11/23

5 理事会 8/7,9/4,10/2,11/6,12/4,1/8,2/5,3/5

6 台峯を歩く会(山歩き) （10 含め P.10 参照）
8/21,9/18,10/16,12/18,1/15,2/19,3/19

7 山の手入れ
9/17,10/15,12/17,1/14,2/18,3/18

8 モニタリング
8/7,10/2,10/15,11/6,12/17,1/14,2/18,3/5,3/18

9 北鎌倉女子学園生徒を台峯に案内 3/16

10 マツムシを聴く会 9/18

編 集 後 記

「台峯を歩く会」などで皆さんが踏んでいく赤土は酸化鉄の関東ロームだが、アルミニウムの原料、酸化アルミのボーキサイトもまた赤い土であるらしい。

先日の同窓会で 40 年ぶりに会ったその男は、商社で非鉄金属畑を生涯歩いて来た。しかし、新婚早々赴任したニューカレドニアは独立闘争により文字通り「天国にいちばん近い島」となってしまい、這う這うの体で脱出。続いてのコンゴでも戦乱に巻き込まれて、命からがら逃げ帰って来たのだが、どちらもボーキサイトの産地で赤い土地だった由。

それを聞いて思い出し、

「南仏の田舎町レ・ボーにあるミシュラン星付シャトー・レストラン『ボー マニエール』に昔新妻と泊まって食事したけど、確かこの地名が『ボーキサイト』の語源の筈。いやはや美味かったし、快適だったなぁ。そういえば、シャンパン片手に寝そべったプールサイドの土は赤かったけど。」

男は憮然として、

「同じ赤い地での新婚生活が、どうしてそんなに違うんだ！」

正会員の皆さまへ　総会の予告

正式かつ詳細なご案内は、間近になってから別途お送りしますが、来る5月28日（日）午前に、山ノ内公会堂にて、の予定です。ぜひお越しください。

会報35号

発行日	2017 年 4 月 20 日
発行者	特定非営利活動法人 北鎌倉の景観を後世に伝える基金
事務局	〒248-0011 鎌倉市扇ガ谷 3-2-12 本田方
HP	www.kitakamakura-daimine-trust.org
写真	小谷一夫・久保廣晃・望月眞樹・本田隆史

工事により変わる風景

整備工事により変わる風景があります。「谷戸の池」周辺の工事前の姿をまとめました。

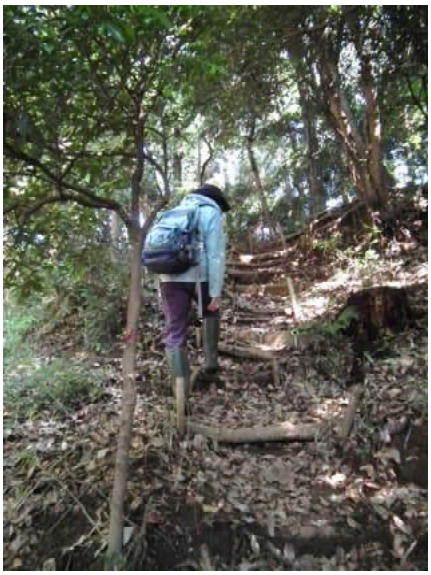
＜草枯れ時の堤＞

＜堤の上。真ん中が道で、両側にはササ＞

＜草生え時の堤＞

＜堤を越えて流れ出る池の水＞

＜当基金で作業中の堤下の湿地＞



＜谷戸と尾根を結ぶ、当基金の皆さんで作った階段＞